

2020年12月4日 全5頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（12/4号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り¹

経済調査部 エコノミスト 山口 茜
研究員 和田 恵

[要約]

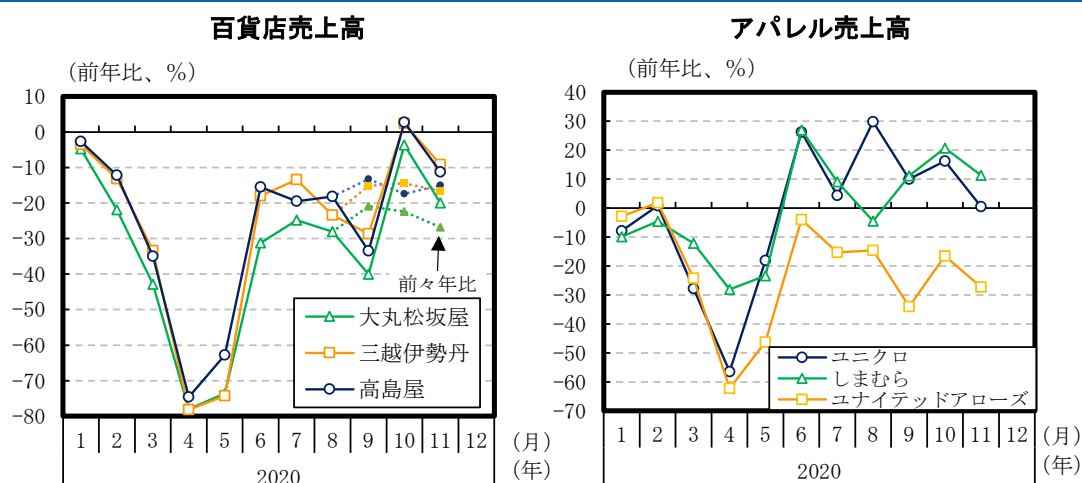
- 11月の消費は10月と同程度だったと見込まれる。財、サービスともに概ね横ばいで推移したとみられる。財に関して、スーパー、ホームセンター、家電量販店の売上は10月から小幅に増加した一方、アパレル売上と新車販売台数は小幅に減少し、百貨店売上は概ね横ばいであった。他方、サービスに関しては、月前半は「Go To キャンペーン」が追い風となり堅調に推移したものの、後半は新型コロナウイルスの感染が拡大し、同キャンペーンが一部制限されたことが重石になったとみられる。
- 【小売関連】11月のスーパーの売上は前月比+1%程度、ホームセンターは同+2%程度、家電量販店は同+3%程度と、いずれも10月から小幅に増加した。他方、アパレル各社の売上伸び率は低下し、新車販売台数は▲3%程度減少した。また、大手百貨店の売上伸び率は、前年の消費増税の影響を除いた前々年比ベースで概ね10月並みであった。
- 【サービス関連】11月の新幹線輸送量は前年比3~5割減程度と10月からマイナス幅が小幅に縮小した。旅客機輸送量も同様に前年比マイナス幅が小幅に縮小したと見込まれる。今後公表される宿泊者数、外食売上において、月後半の感染再拡大の影響がどの程度表れるかが注目される。なお、外食・旅行・娯楽関連消費と連動している小売店・娯楽施設の人出は、月平均で見ると10月から横ばいであった。

¹ 本稿は、速報性の高い個社データ・業界統計・POS データを基に、足元の消費動向を確認する定期レポートである（2020年4月初めから公表開始）。

<小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の11月の既存店売上高伸び率は前年比1~2割減程度。
前年の消費増税の影響を除いた前々年比ベースでは10月と同様に2割減程度。
- ◆【アパレル】11月の既存店売上高伸び率は、しまむらが前年比1割増程度、ユニクロが横ばいと、ともにプラス幅が縮小。ユナイテッドアローズは同3割減程度とマイナス幅が拡大。月前半は好調だったものの、後半は平年より気温が高かったことによる冬物商品の販売の不振や、新型コロナウイルスの感染再拡大が重石に。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

色付きのマーカーは前々年比（一部は大和総研による試算値）。

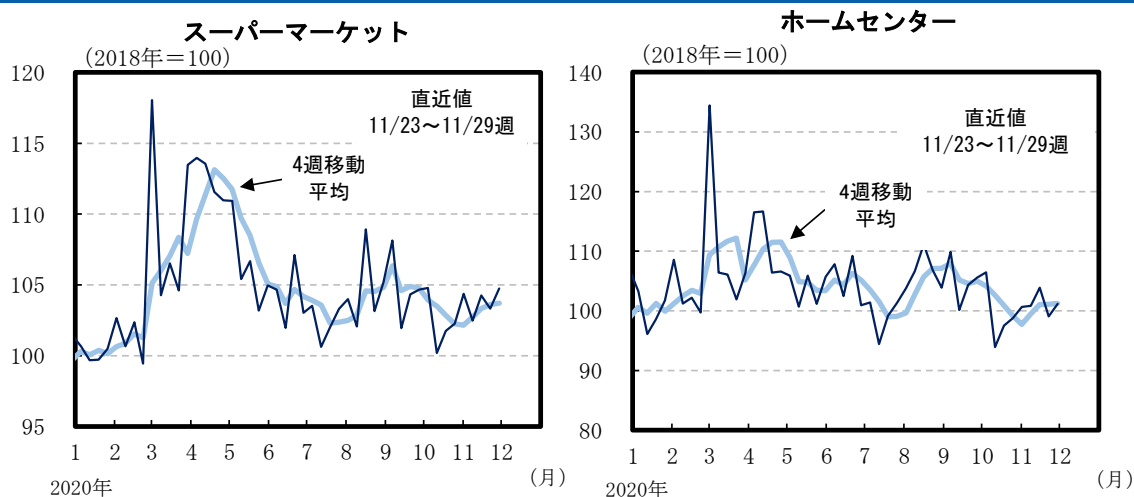
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】11月の売上は前月比+1%程度（大和総研による季節調整値）。
主力の食品売上は前月から横ばい。
- ◆【ホームセンター】11月の売上は前月比+2%程度（大和総研による季節調整値）。
雑貨や飲料などの売上が増加。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

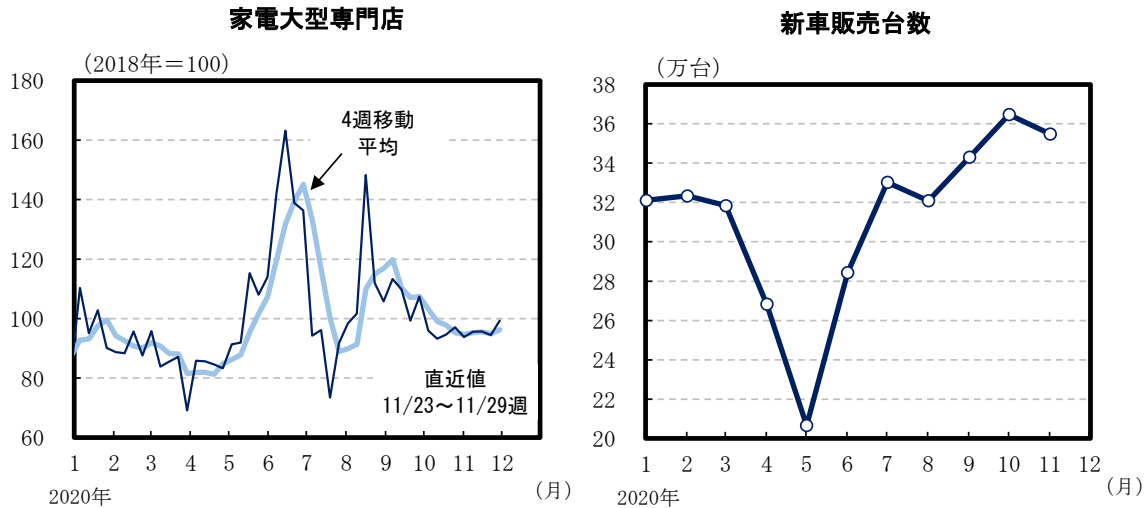


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】11月の大手家電量販店の売上は前月比+3%程度（大和総研による季節調整値）。9月以降前月比で減少傾向が続いていたが、持ち直しの兆しが見られる。
- ◆【自動車】11月の新車販売台数は10月から1万台減少（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

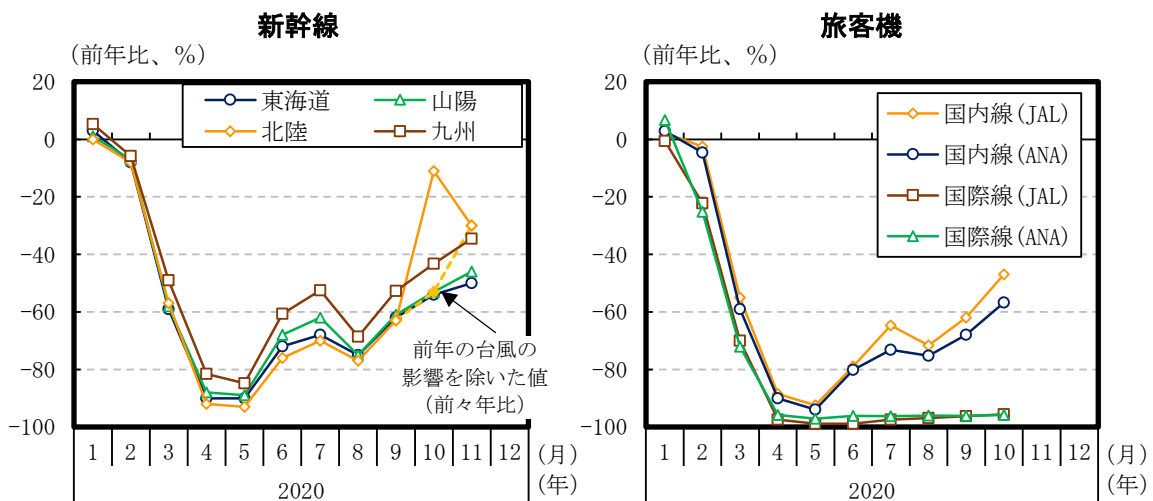
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】11月の輸送量は、前年比3~5割減程度と10月からマイナス幅が小幅に縮小。（北陸新幹線の10月分は前年に台風で運休した影響を除くため前々年比を参照。）
- ◆【旅客機】10月の輸送量は、国内線は前年比5~6割減程度と9月からマイナス幅が縮小。国際線は9月と変わらず同95%減程度。11月はANA・JAL両グループで国内線の約3割、国際線の約8割が運休。いずれも運航便の割合は10月から小幅に上昇。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



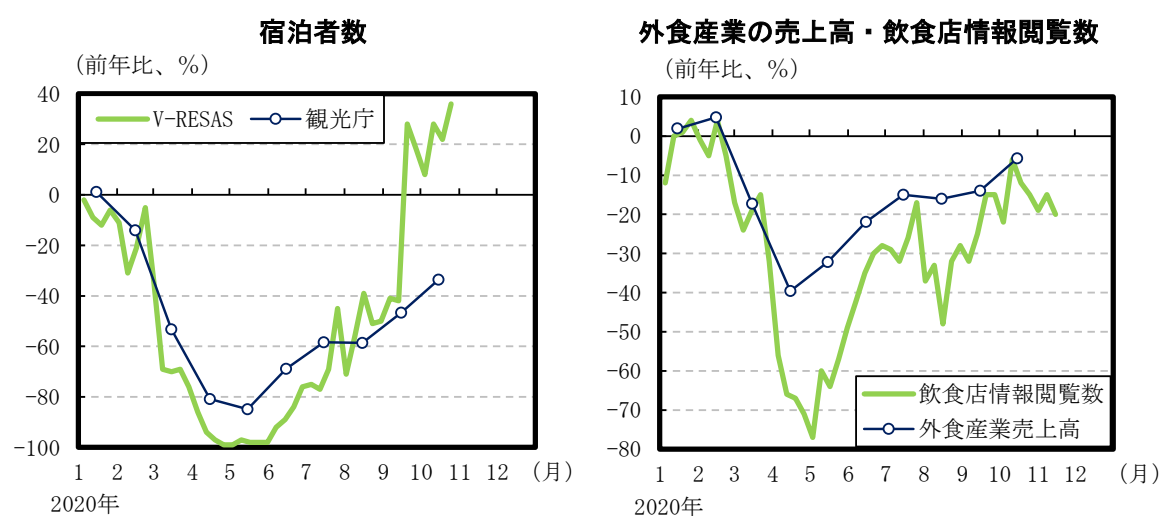
(注1) 新幹線の11月は、九州が23日まで、東海道が25日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】10月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は前年比3割減程度とマイナス幅が縮小。「Go To トラベルキャンペーン」が東京都へ適用拡大されたこと等が追い風に。11月は月後半に新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化し、同キャンペーンが一部制限されたことが重石に。
- ◆【外食】10月売上伸び率は前年比6%減程度と9月からマイナス幅が縮小。業界コメントによると、自粛緩和ムードや飲食消費回復への支援策が追い風に。ただし、「Go To Eat キャンペーン」のオンライン予約に関連した登録料や手数料がかかるため、企業のキャッシュフローは売上ほど改善していない可能性。11月は月後半に感染状況が急速に悪化し、感染拡大地域において同キャンペーンの利用者数が制限されたこと等が重石に。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・客数



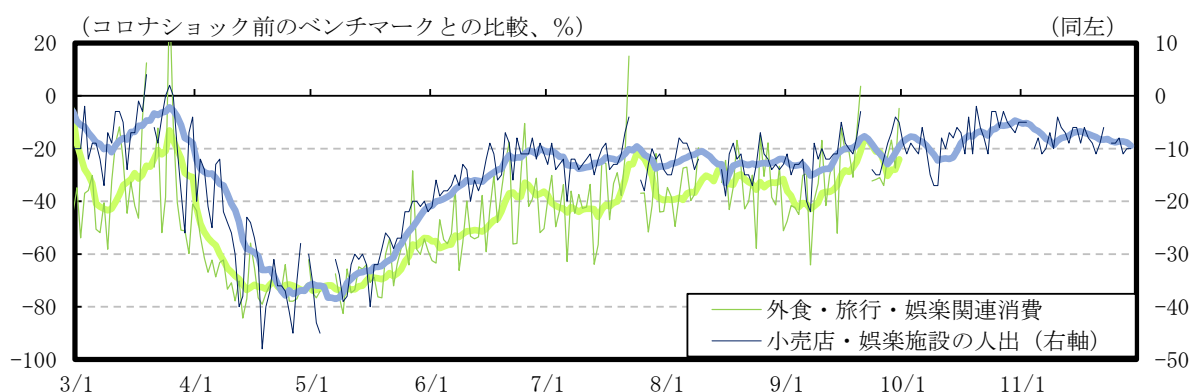
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

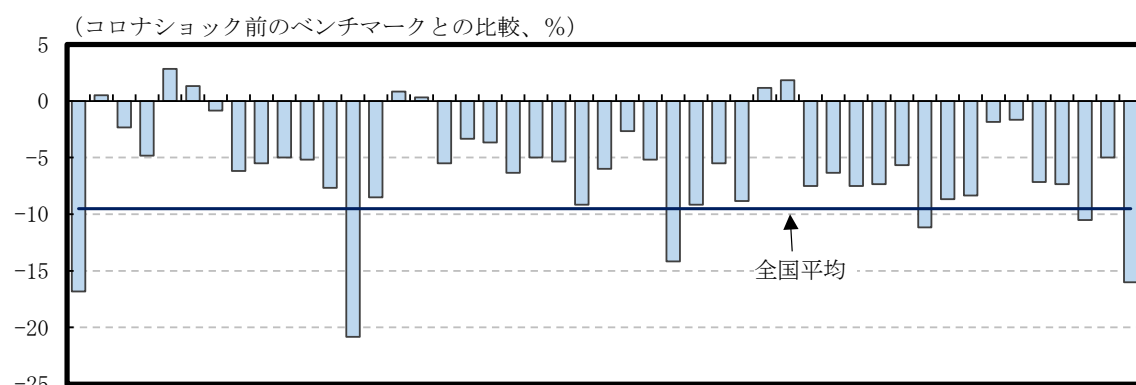
<参考：Google 社の位置情報データ>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の入出と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。月～金曜日の祝日とお盆のデータは除いている。
(出所) 総務省統計、Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 6-2：小売店・娯楽施設の入出（11/24～11/29 週平均、都道府県別）

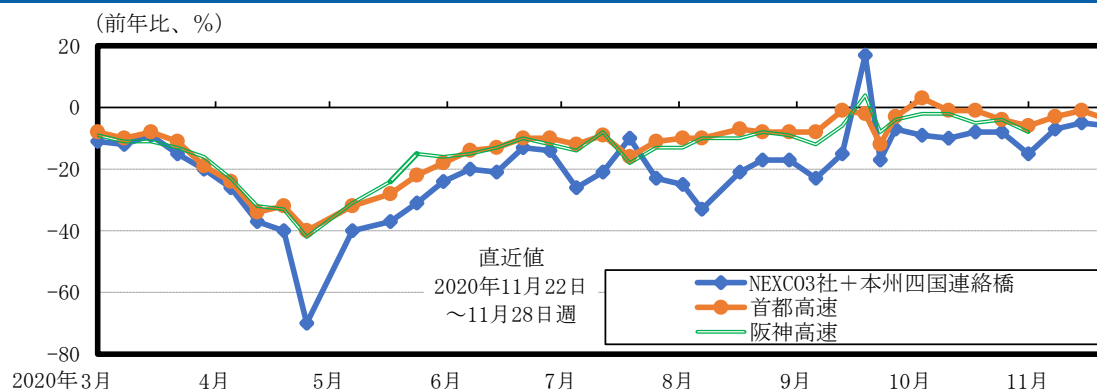


北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖
海森手城田形島城木馬玉葉京奈渦山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄
道 川 山 島

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。
(出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

<参考：高速道路交通量>

図表 7：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィークの前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成